

正月雑感

校長 中村 勉

あけまして おめでとう ございます

初日の出を拝むことができた東京でした。様々な情報が入ってくるたびに、今年が子ども達、皆様、職員にとってよい年であるよう願わずにはいられませんでした。

1年の計は元旦にあり

不思議なもので、元日の朝は、どうして身や心がしゃきっとするのでしょうか。1年の始まりの日、未来に向けての第一歩を歩み始めるからでしょうか。「今年は」、「今年こそは」と、自分のあり方、行動目標を考えることはとても意義あることです。私も密かに3つの行動目標を立てました。

箸談議

2日、例年のように母のところに兄・姉・その子ども達が一堂に会しました。元気に皆新年を迎えることができた喜びを語り合い、会食が始まりました。

突然娘が、「おばちゃん、お箸の持ち方、使い方、これでいいの?」と聞いたことから、がぜん話がヒートアップ。母の講義で全員が自分の箸の使い方を実演。結局私の使い方が一番だめということになってしまいました。甥っ子が、早速インターネットを使って情報を収集。お箸使いのタブーなるものを皆に回覧。

ねぶり箸、刺し箸、迷い箸、寄せ箸、拾い箸(合せ箸)、たたき箸、、、等。

5?歳にして、身につけていない自分を知り、今年の行動目標の一つが明確になった1日でした。

帰りがけに母が「勉、ごめんね。5番目の末っ子だったので甘やかしてしまったね」とそつと言ってきましたが、決して母のせいだとは思いませんでした。兄や姉たちから学ぶ時間は、十分あったのですから。

年賀状

恩師、先輩からの賀状は、大変嬉しいものです。その中に「艱難汝を玉にす」という励ましの言葉をいただきました。「艱難(つらいこと。なんぎなこと。くるしみなやむこと)があなたを磨き、一人の人間として成長させますよ」ということをおっしゃってくださったのだと思います。「苦勞は買ってでも」とか「かわいい子には旅をさせよ」という言葉も同じようなことをいっているのでしょうか。「玉を磨く」、つまり磨いて立派な人になるには外の力、外の世界がどうしても必要なのでしょう。それは、人であり、出来事であり、自然現象等なのでしょう。人が人として成長していくというのは、この艱難を乗り越えていくことの連続なのかなと考えるのですがいかがでしょうか。

正月草々、私事の話に終始してしまいました。お許しいただければ幸いです。

本年もよろしくご支援のほどお願いいたします。

1月の予定

(特別時間割)

8日(木) 始業式 大掃除

9日(金) 給食開始

(A時間割)

12日(月) 成人の日

13日(火) 避難訓練 委員会 計測(6)

14日(水) 計測(5) 児童集会、
普通時程4時間

15日(木) 計測(4)

16日(金) 計測(3)

(B時間割)

19日(月) クラブ、計測(2)

20日(火) 計測(1)

21日(水) 児童集会

23日(金) 桜木祭

(A時間割)

26日(月) クラブ(3:見学)

27日(火) ふれ合いボランティア

(1~4、2中2年)

29日(木) 書き初め展開始(~2・9)

30日(金) 音楽朝会

授業公開は2月9日(月)に変更になりました。申し訳ありません。

サポートスタッフだより

3学期のサポートスタッフ

2学期は、2年生の生活科、家庭科、そして囲碁将棋クラブ等々たくさんのサポートを頂きありがとうございました。また、ICUの学生ボランティアも、登録が増え、日常の授業でのサポートに関わってくださっています。

いよいよ“1年間のまとめの3学期”各学年、専科、担当者よりサポートのお願いのプリントが配布されます。多くの目で子ども達にかかわり、学びを創っていくために、『二小お助け隊』の皆様のご協力を今学期もよろしくお願ひします。



1月の生活目標

「きまりを守ろう」

新しい年が始まりましたが、学校は3学期。1年間のまとめの時期になりました。

今年度学校では、学期に1度は「思いやりや助け合いの心を持とう」という目標を立てて集中的に取り組ん

でいます。12月の“やさしさこくばん”にも2学期最後のメッセージがありました。

子供たちの書いたメッセージの最後に「ありがとう」が添えられているカードが数枚ありました。「ありがとう」の言葉で温かい気持ちになります。多くの人と関わりながら、思いやりや助け合いの心が育ってほしいと願わずにはいられません。

関わりといえば、学校だけでなく、家庭や地域など子供の行動範囲が広がれば広がる程、様々な関わりが生まれてきます。

12月22日に社会教育会館館長の吉沼徳人さんをお招きして、児童館での子供たちの様子や児童館事業の内容をお話していただきました。西児童館は三鷹の中でも利用する方が多く年間62000人も利用しているそうです。その内の75%が本校の子供たちです。中学年が多いそうですが、様々なイベントに参加し楽しんでいる様子がよく分かりました。児童館は「遊び場を提供する事業」ということですが、学校と同じように利用する人が気持ちよく使えるように、また、楽しく交流できるように約束事があります。お話の中で、学校と共通する課題もありました。

「物を大切に使う」「使ったらきちんと後始末をする」「あいさつをしっかりとる」

「閉館時刻5時を守る」・・・などです。

児童館では子供同士の積極的な関わりを図るために多くのボランティアの方が参加しています。恵まれた地域に住む子供たち。基本的なルールはしっかり守らせたいですね。

さて、学校の今月の目標は「きまりを守ろう」です。冬休み明けで、もしかしたら忘れているきまりがあったら、もう一度見直してみましょう。そして、まず自分から守っていく努力をしましょう。また、もし、守られていない子がいたら思いやりや助け合いの心で話しかけてみましょう。

きっと、教えてもらった子からは、「ありがとう」と言う言葉が返ってくるでしょう。

ご家庭でも、ご協力ください。

校内書き初め展について

今年も1月29日(木)から2月9日(月)の期間に書き初め展を行います。例年通り、各教室の廊下に展示します。

学年もしくはクラスで行う「席書会」で、これまでの学習の成果を、思う存分発揮してくれることを期待しています。

例年、席書会では、どの学年もよい意味での緊張感が漂います。その中で、一枚の手本を真剣に見ながら、一字一字を確かめつつより良い字を心掛けて書いています。今年も、そのような中で、頑張っている書き初めを、是非ご覧ください。

いろいろな学年の作品をご覧いただければ幸いです。そして、「書」に込められた子どもたちの思いも感じとって頂きたいと思います。「大きい」「力強い」「中心が整っている」「バランスがよい」「のびのびしている」など、それぞれの書のよい点を褒めていただけると、更により字になっていきます。

国語科担当

第20回 三鷹市小学校図画工作展について

今年も三鷹市の小学校児童の図画工作の時間や造形活動による作品を展示する、「三鷹市小学校図画工作展」が開催されます。

まだ確定はしていませんが、二小からも今までに作った作品を各題材数点ずつ、合計60～80点の図画作品を出品する予定です。出品者には1月になってから出品者証をお渡します。

開催期間は、平成16年1月21日(水)～1月24日(土)の午前9時30分から午後5時まで(最終日は午後3時まで)となっています。

会場は 三鷹市芸術文化センター 展示室です。

いろいろな学校の児童の作品を鑑賞できる良い機会です。是非、足を運んでみてください。

図工担当

桜木まつりについて

1月23日(金)に、恒例の桜木祭りがあります。子どもたちが決めた今年のめあては、『みんなで協力し合い、全校児童で楽しめる桜木祭りにしよう』です。ルールとして、かたづけまでしっかりやる。準備の時からゴミを出さない工夫をする。勝手な行動はしない、の3つを代表委員会で話し合いました。去年の反省を活かし、今年も楽しい桜木祭りを計画中です。

特別活動の一環として、学年や学級で店の出し物を企画し、準備・運営する活動を通して、自主性や創造性を伸ばすだけでなく、そのための話し合いや運営で、連帯感を深めていきます。また、異学年交流を深め、思いやる気持ちを高めたいと思います。

子どもたちの考える出し物は、ユニークなものばかりで、お店を回る者をいつも楽しませてくれます。例えば、ボーリング・魚釣り・射的・ストラックアウト・お化け屋敷など。この他にも、学級独自で考えた遊びもあります。子どもたちの発想には感心してしまいます。

代表委員会では、これらの各学級のやりたい内容のアンケートをとり、なるべく重ならないように調整しました。また、桜木祭りカードを作成しました。低・中・高学年に分け、それぞれに合ったカード作りに取り組んでいます。

子どもたちが楽しみにしている桜木祭り、今年はどうなお祭りになるのでしょうか？

代表委員会担当

二小の授業づくり その8

「2年生 生活科の授業から」 【冬を楽しもう～育てる編～寄せ植えに挑戦！】...

この学習は午前中に、近所の農家へ児童一人一人が財布を持って葉ボタンなどを買いに出かける所からスタートしました。最初は教室でビデオによる農家の方の説明を聞き、その後校庭に出て、実際に寄せ植えの作業をし、最後にまた全体で感想を発表する授業でした。

児童にとっては葉ばたん等の花の種類を選択できたこと、アレンジに自分のセンスが生かされたこと、そして、翌日からの世話も自分に任されていたこと等が価値あることだと思いました。また、どの子ども落ち着いて話を聞いていること、困った時にすぐに教師に聞かないで友達に聞いて自力解決している姿にも感心いたしました。地域の農家の方のご協力を得て、良い学習が出来たと思います。

「3年生 理科の授業から」 【磁石につけよう】...磁石を使った遊びを通して、磁石の性質に触れる。

磁石の学習は、3年生ではじめて出てきます。今回の授業は、この磁石の学習の導入に際して、磁石を使って遊びながら自然に磁石の性質についてその片鱗に触れることをねらったものです。磁石遊びは6つ用意してあります。リング状の磁石を棒に突き刺して空中に浮かばせるコーナー、磁石が後ろについている車をもう1つの磁石で動かすコーナー、糸につるしたクリップを棒磁石の真ん中につけようとするコーナー、磁石の引き付ける力を利用して蝶を空中に浮かばせるコーナー、コマの軸を磁石につけたまま空中でコマを回すコーナー、クリップが磁石に磁化されることを利用してクリップをたてに何個もつなぐコーナーです。子どもたちはこれらのコーナーで課題を達成しようとする中で気付いた点を記録しながら、磁石の性質に自然に触れることができました。磁石の導入としては、大変素晴らしく工夫がしてあり、楽しみながら学習が身につくという、とても良い授業でした。時間が来て終わりになった時、「エー!」、という子どもたちの驚きの叫びがいかにかこの授業が楽しいものであったかを物語っていました。

(文責、校内研究担当)

職員の間

～職員からみた、いろいろな二小の子どもの様子、日々の取り組みなどをリレー形式で紹介していきます。

心に夢のタマゴを持つ

小柴昌俊さんは、2002年、「天体物理学、特にニュートリノの検出に関する研究」によって、ノーベル物理学賞を受賞しました。

小柴さんは、中学校1年生のとき、小児麻痺にかかり、約半年間、休学しており、今でも右腕が左腕よりずっと細くて不自由をきたしているそうです。

小柴さんが、病気で学校を休み、病院に入院していた頃、当時の数学の先生から『物理学はいかに創られたか』という本をプレゼントされました。その本を読むうちに物理学の面白さを知り、物理学に興味をもつようになり、物理学の研究へのきっかけをつくったといえます。もし、この1冊の本との出会いがなかったならば、ノーベル物理学賞の受賞があったかどうかは定かではありません。

ところで、小柴さんが、こんなことを語っています。「自分のこれからの一生の間に、これをやりたい、やり遂げたい、そういう目標になるタマゴを三つか四つ、いつも大事に持って欲しい。世界にはいろんな情報があふれている。そうすると、いったいどの情報を取り入れたらよいかわからなくなる。

けれども、自分がいつかはやりたいと思っている目標を三つか四つ、いつも持っているとき、情報を見たときに、『あ、この情報、これを使えば私のこのタマゴは鳥に解すことができるかもしれない』あるいは、『あ、こういうことがやられちゃったらタマゴを解す可能性はないな。じゃほかのタマゴと取り替えよう』

こういうふうに、自分の必要な情報をちゃんと選び出すことができるようになる。

情報が多過ぎる時代でこれから活躍するみなさんが、あなた方一人一人が、この人がこの地球に生まれて、こういうことをやったんだよと、地球に爪あとを残すような仕事を残せるように頑張ってください。どんなときにも、『ああ、オレはもう駄目だ』なんて言わずに『自分のやりたいことはこれなんだ』と、夢のタマゴを持ち続けて頑張ってください。道は開けるかもしれないよ.....。』と。
(小柴昌俊『心に夢のタマゴを持つ』 講談社文庫より)

小柴さんが述べている「心に夢のタマゴを持ち続ける」という言葉は、特に、小・中学生のこれからの生き方にとっても参考になる響きのある言葉であるように思えます。でも教師になった私でもこの「夢のタマゴ」はいくつか持っています。いつかかえてみせたいと心の中に持っています。子どもたちにはたくさん「夢のタマゴ」を持って欲しいですね。

文責 2の2 担任